

動きを高め合う子どもを育てるダンス系の学習指導
—言語活動の充実を図る授業づくりを通して—

宮若市立若宮西小学校 門司 恒之
みやま市立高田中学校 金ヶ江正大
福岡県立八幡中央高等学校 柴崎雄一郎

I 主題設定の理由

1 ダンス系の特性及び課題から

ダンス系の学習とは、小学校1・2年生の「表現リズム遊び」、小学校3年生～6年生の「表現運動」、中学校1年生～高等学校3年生の「ダンス」の領域をつないだ総称である。

ダンス系の学習は、学習そのものが表したいイメージや思いを表現する活動であり、だれもが、今自分が持っている能力で「動く喜び」や「創る楽しみ」などを味わうことができる。さらに、仲間の「表現」を見ることにより、自らの「表現」を見つめ返し、動きを高めることもできる。このように、自らを解放するとともに、他者を受け入れ、新たな自分を発見していくことは、人間の生活をより豊かにしてくれるものである。ダンス系の学習はまさしく、この道筋に沿って学習が進められ、このことは、小学生から高校生まで継続して培われるべきであると考えられる。このような学習の系統性を重視した研究については、過去2年の本研究所の長期派遣研修でその成果が報告されている。

しかし、平成元年の学習指導要領改訂で中学校と高等学校において男女共習となったダンス系の学習は、特に男性の指導者にとって、その経験不足などを理由に、未だ敬遠されがちな領域であることは否めない。また、七澤(2010)は、「決まった型をなぞることはできても、自由にイメージや自分の思いを表現することに慣れていない子どもたちが増えている。」という課題を提言している。このような課題を持ちつつも、その教育的価値について水谷と三浦(1973)は、「創造的な身体の動きによる自己表現の経験は人間形成のためにきわめて重要な存在である。」と述べている。

以上のことから、ダンス系の学習は、表現能力や創造力、協調性などを育てる上で有意義である。さらに、ダンス系の学習指導の研究に取り組むことは、ダンス系の学習指導における今日的課題解決の一助になると考え、本主題を設定した。

2 学習指導要領の改訂から

今回の改訂では、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を養うことが求められている。中央審議会答申(2008)では、体育科、保健体育科指導要領改訂の基本方針として、「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資する。」と述べている。これは、まさに体育学習における運動の合理的な実践が言語活動の充実につながるものであり、思考力・判断力・表現力等の育成に資するものであることを示している。中でも、ダンス系の学習は、自分の思いや話し合ったことをそのまま運動として表現できる領域である。動きを工夫しながら踊ったり、創作したりする過程で、言語活動を通して仲間とのかかわりを深めることで、協力する態度を育成することもできる。さらに、柴(1993)は、「ダンスは表したいイメージを動きで表すものであるが、言語で表すことにより、自分自身の内界にあるものを明確にとらえ、自他の内界の違いを認識する契機となる。」とし、ダンス系の学習における言語の効果について提言している。特に、表現・創作ダンスの学習では、イメージを膨らませて自由に表現を創造することができるとともに、メッセージ性があり、学習の中で言語活動を誘発することができる。

以上のことから、中学校1・2年生においてダンスが必修となった今回の新学習指導要領を踏まえ、ダンス系の学習で、言語活動の充実を図る研究に取り組むことは有意義である。このことは、イメージや自分の思いを動きで表現できる技能を身に付けさせるとともに、自分の思いを見つめ返したり、他者の思いを受け止めたりするコミュニケーション能力や論理的思考力を育てることにつながることを考え、本主題を設定した。

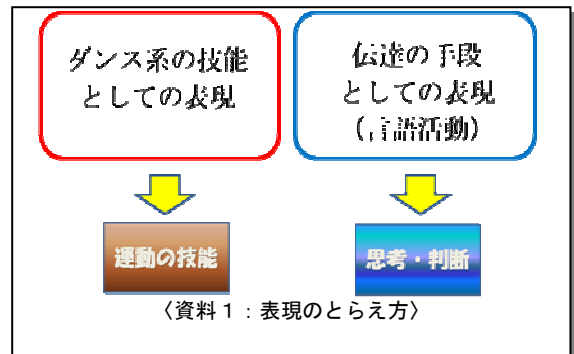
II 主題及び副主題の意味

1 「動きを高め合う子どもを育てる」とは

ダンス系の学習を通して、イメージや思いを動きで表現する「技能」とともに、「態度」や「知識」、「思考力・判断力」といった資質や能力を互いに伸ばし合う子どもを育成することである。

○ 「表現」について

「表現」のとらえ方について、佐藤(2010)は、評価の観点から、「体育における身体表現は『技能』として評価すること。『思考・判断・表現』で示された言語表現については、身体表現としての表現との混在を避けるという視点から、『運動に関する思考・判断』として評価する。」としている。これを参考に、本研究では、ダンス系の技能としての表現は「運動の技能」、伝達するための手段としての表現は「思考・判断」ととらえ、右図〈資料1〉のように整理する。



(1) 「イメージや思いを動きで表現する『技能』」について

イメージとは、経験や情緒などの蓄積をもとに、心の中に思い浮かぶ像のことである。村田(1998)は、「イメージの豊かさ(深まりや広がり)は常に動きとの関係で決まってくる。」と述べている。このことは、逆に、「動きはイメージの豊かさ(深まりや広がり)で決まる。」とも言える。

思いとは、「これを表現したい。」「こういうふうに出てみよう。」と心を働かせることである。

動きとは、マイネルの「スポーツ運動学」を参考に、時間・力・空間の要素、すなわち、速さ・強さ・高さや大きさ、方向からとらえた身体活動のことであると考える。

さらに、ダンス系の学習における「技能」は、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説(2008, 2009)の内容から、「即興的に表現すること」と「ひとまとまりの表現にすること」に整理することができる。即興的に表現するとは、直感的にとらえたイメージを思いつくままに表すことである。ひとまとまりの表現にすると、表したいイメージや場面を中心に、変化や起伏のある「はじめ—なか—おわり」の構成に工夫して表すことである。このとき、様々なテーマや題材に応じて、動きに緩急(時間的要素)や強弱(力の要素)を付け、空間の使い方を工夫することで、動きの「量」を増やしたり、動きの「質」を高めたりすることができる。と考える。

つまり、イメージや思いを動きで表現する「技能」とは、表したいイメージや自分の思いにふさわしい身体の動かし方を心に描き、動きの「量」を増やしたり、動きの「質」を高めたりしながら、個や群で即興的に表現したり、ひとまとまりの表現にしたりすることができることである。

そこで、学習指導要領解説を基に、ダンス系の学習における学習内容(技能)の系統表を次ページの〈資料2〉にまとめた。

(2) 「ダンス系の学習の『態度』や『知識』、『思考力・判断力』といった資質や能力」について

ダンス系の学習における「態度」や「知識」、「思考力・判断力」については、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領解説(2008, 2009)を基に、次のように整理した。

資質や能力	前期	中期	後期
「態度」	運動に進んで取り組み、仲よく安全に学習することができる。	運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い、健康・安全に気を配ることができる。	運動に主体的に取り組むとともに、互いに共感し、自己の責任を果たそうとすることや健康・安全を確保することができる。
「知識」 ----- 「思考力・判断力」	自分の能力に合った課題を見つけ、練習や発表の仕方を工夫できる。	ダンスの特性や表現の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。	ダンスの名称や用語、表現や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。

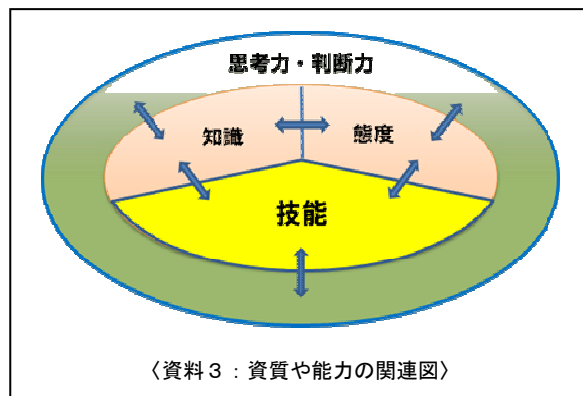
〈資料2：ダンス系の学習における学習内容(技能)の系統表〉

	A身近な生活や日常動作	B対極の動きの連続	C多様な感じ	D群(集団)の動き	Eもの(小道具)を使った動き	F作品創り(はこびとストーリー)	
後期	高等学校2・3年	「ただいま、猛勉強中」などと題して、本を読む、書く、考えるなどの動きを猛スピードで繰り返したり、スローモーションで動いたりするなどの変化を付けて表現する。	「伸びる一落ちる一回る・転がる」では、体をゆっくりとした動作で極限まで伸ばし、瞬間的に脱力して床に崩れ落ち、ゆっくりと回る・転がるなどのひと流れの動きをしたり、歩く・走るなどのつなぎの動きを入れて繰り返したりして表現する。	「声にならない叫び」などと題した題材では、多様な感じの中から「静かな」と「激しい」といった対照的な感じをとらえ、こみ上げる感情を抑えている様子を、こぶしを握る、胸をかかえるなどの静かな動きと、回って押す、鋭く伸びる、足を踏み鳴らす、ジャンプするなどの激しい動きで、緩急強弱を付けて繰り返して表現する。	2～3群に分かれてタイミングをずらした動き(カノン)、全体で統一した動き(ユニゾン)密集一分散など群の動きに変化を付けて空間が変化するように動く。	大きな布では、布の中に隠れる・出る、布をまとめる・広げる・揺らすなどの「もの」を使って、形状に変化をつけて動きで表現する。	気に入ったテーマを選び、ストーリー性のある運びで、一番表現したい中心の場面にふさわしい「緩急強弱のあるひと流れの動き」で表現して、繰り返しや時間・力・空間の変化と強調によって、ダイナミックな盛り上がりをつけて作品にまとめて踊る。
	高等学校1年 中学校3年	「出会いと別れ」では、すれ違ったりくっついたり離れたりなどの動きを、緩急強弱を付けて繰り返して表現する。	「ねじる一回る一見る」では、ゆっくりぎりぎりまでねじって力をためておき、素早く振りほどくように回って止まり、視線を決めるなど変化や連続のあるひと流れの動きで表現する。	「力強い感じ」では、力強く全身で表現するところを盛り上げて、その前後は弱い表現にして対照を明確にするような簡単な構成で表現する。	大きな円や小さな円を描くなどを通してダイナミックに空間が変化するように動く。	「椅子」では、椅子にのぼる、座る、かくれる、横たわる、運ぶなどの動きを繰り返して、「もの」とのかかわり方に着目して表現する。	気に入ったテーマを選び、ストーリー性のある運びで、一番表現したい中心場面を「ひと流れの動き」で表現して、はじめとおわりを付けて簡単な作品にまとめて踊る。
中期	中学校1・2年	一番表したい場面や動きを、スローモーションの動きで誇張したり、何回も繰り返したりして表現する。	「走る一跳ぶ一転がる」などをひと流れでダイナミックに動いてみてイメージを広げ、変化や連続の動きを組み合わせる。	生活や自然現象、人間の感情などの中からイメージをとらえ、緩急や強弱、静と動などの動きを組み合わせる変化やめりはりを付けて表現する。	仲間とかかわり合いながら密集や分散を繰り返し、ダイナミックに空間が変化する動きで表現する。	ものを何かに見立ててイメージをふくらませ、変化のある簡単なひとまとまりの表現にして踊ったり、場面の転換に変化を付けて表現したりする。	仲間とともに、表したいイメージを変化と起伏のある「はじめ一なか一おわり」のひとまとまりの構成で表現して踊る。
	小学校高学年	変化や起伏のある動きで踊る。	素早く走る、急に止まる、回る、ねじる、跳ぶ、転がるなどの動きを組み合わせたり繰り返したりして激しい感じや急変する感じをひと流れの動きで即興的に踊る。	関心のあるいろいろな題材から、印象的なできごとをとらえてひと流れの動きで即興的に踊る。	集まる(固まる)・離れる、合わせて動く・自由に動くなど、表したいイメージにふさわしい簡単な群の動きで即興的に踊る。		表したいイメージを、「はじめ一なか一おわり」をつけた簡単なひとまとまりの群の動きにして、友達と感じをこめて通して踊る。
前期	中学年	大きく・小さく・速く・遅くなど動きに差をつけて誇張したり、2人で対応する動きを繰り返したりして、ひと流れにして即興的に踊る。 2人組で対比する動きでは、対応する動きや対立する動き・対極の動きを組み合わせたり、繰り返したりしてひと流れの動きで即興的に踊る。					表したい感じや場面を中心に、「はじめとおわり」をつけた動きにして感じをこめて踊る。
	小低学年		いろいろな題材の特徴や様子を具体的な動きでとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなど動きに高・低の差や速さの変化を付けて即興的に踊る。				急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊る。

(3) 「互いに伸ばし合う子ども」について

今回の学習指導要領の改訂では、「技能」と「態度」、「知識」、「思考・判断」の学習内容についてはそれぞれを関連させながら高めていくことが必要であるとされた。ダンス系の学習では、子どもが互いに動きを工夫して踊る中で、自分のイメージや思いを見つめ返したり、仲間の新たなよさを発見したりすることができる。これを村田(1998)は「共感的コミュニケーション」と呼び、「ダンス系の学習は、表したいイメージや思いを動きに工夫することができる創造的な学習である。」としている。このことは、ダンス系の学習では、コミュニケーションをとりながら学習を進めることが、「技能」だけでなく、「態度」や「知識」、「思考力・判断力」を培うことができることを意味していると考えられる。

つまり、互いに伸ばし合う子どもとは、仲間と共感的コミュニケーションをとりながら、表現の仕方や練習、発表の仕方などを工夫することで、ダンス系の学習における「技能」を身に付けるとともに、学習に進んで取り組む「態度」やダンスに関する「知識」、動きを工夫できる「思考力・判断力」を互いに伸ばしていく子どもと考える。〈資料3〉



2 「ダンス系の学習指導」とは

ダンス系の学習において、踊る楽しさや喜びを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる学習指導を行うことである。

(1) 「ダンス系の学習」について

ダンス系の学習とは、前に述べたように「表現リズム遊び」「表現運動」「ダンス」の領域をつないだ総称である。小学校・中学校・高等学校の校種に対応したダンス系の内容構成を〈資料4〉のようにまとめた。

前期		中期		後期	
小学校 1・2年 3・4年		小学校 5・6年	中学校 1・2年	中学校 3年	高校 3年間
表現 リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	
・表現遊び	・表現	・表現	・創作ダンス	・創作ダンス	
・リズム遊び	・リズムダンス		・現代的なリズムのダンス	・現代的なリズムのダンス	
		・フォークダンス	・フォークダンス	・フォークダンス	

〈資料4：ダンス系の内容構成〉

(2) 「踊る楽しさや喜びを味わわせる」について

一般に、「踊る楽しさ」としては、学習の過程に沿って、次の3点を考えることができる。

- ・「おどる」…心も体もなりきって踊ったり、仲間と一緒に踊ったりする楽しさ
- ・「つくる」…いろいろなアイデアや工夫をこらして創る楽しさ
- ・「みる」…人の表情を見て、共感したり、感動したりできる楽しさ

ダンスを「おどる」体験によって自己開示と変身の喜びを感知すること、また、ダンスを「つくる」体験によって創意・工夫の楽しみを深めることができる。さらに、相互に「みる」(見せ合い、鑑賞)体験によって仲間とのかかわりを深めることができる。これらの自己あるいはグループの目標に向かって「おどる」「つくる」「みる」という一連の体験によって、目標達成の喜びを味わうことができる。

つまり、踊る楽しさや喜びを味わわせるとは、表したいイメージや思いを自由に工夫して、仲間と一緒に「おどる」「つくる」楽しさや出来上がった作品を「みる」楽しさ、目標を達成する喜びや見せ合っ

て共感・交流する喜びを子どもに体験させて感じ取らせることである。

(3) 「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」について

小学校学習指導要領解説(2008)では、「運動に親しむ資質や能力とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能など」とされている。

また、総務省の社会生活基本調査(2008)では、「余暇活動」におけるスポーツの種類別行動者数において、エアロビクスやダンスなど(特定されないダンス、社交ダンスやジャズダンスなども含む)のダンス系の運動を多くの人々が楽しんでいることが報告されている。このことは、人々のダンスへの関心の高さとともに、ダンスが生涯スポーツの方向に対応したものであると考える。

つまり、ダンス系において生涯にわたって運動に親しむ資質や能力とは、踊る技能を身に付けるとともに、積極的に運動に親しむ習慣や意欲、仲間と仲よく活動しながら、踊る楽しさや喜びを味わえるように、自ら考えたり工夫したりする力のことである。

3 「言語活動の充実を図る授業づくり」とは

ダンス系の学習において、表したいイメージや思いを発信したり、仲間と交流したり、自分で内省したりする言語活動を意図的、計画的に仕組むことである。

(1) 「発信、交流、内省する活動」について

中央教育審議会答申(2008)では、思考力・判断力・表現力等の育成のために、次のような学習活動が重要であると示された。

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

このことに加え、佐藤(2010)は、体育学習における言語活動として、次のような場면을例示し、その充実を提言している。

- ・仲間と教え合う場面で、技能の構造や行い方などの知識を基に、動きの改善点などについて、相手の理解しやすい言葉を用いたり、身体表現を交えたりして自分の意見を伝える。
- ・話し合う場面で、練習や試合の結果を基に課題となっている点について、仲間の意見を聞いたり、仲間の感情に配慮しながら自らの意見を伝えたりする。
- ・話し合う場面で、一度立てた作戦などに対して、建設的な批判的思考を用いて、作戦の見直しを図ったり、新たな作戦を提案したりして、チームの合意形成を進める。

さらに、体育学習における言語について、「伝えたいことをより豊かに表現する表情や、身体表現などの非言語の要素を含むという視点から概観することも必要である。」としている。

また、牧戸(2008)は、「他者とのコミュニケーションばかりでなく『自己内対話』により、論理や思考が広がったり、深まったりする。」とし、自分の論理や思考を自ら問い返すことの意義を述べている。

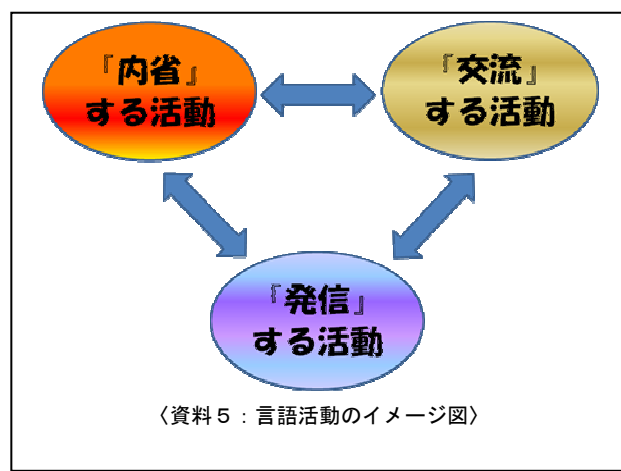
以上のような提言や考え方を基に、本研究では、言語活動を「発信」したり、「交流」したり、「内省」したりする活動として考え、次のように整理した。

言語活動	内 容
「発信」する活動	イメージや自分の思いを主に言葉で表し、相手に伝える活動。
「交流」する活動	仲間の思いを聞いたり、理解したりする。そして、自分の思いを相手に返す活動。
「内省」する活動	自分の思いや動きを自ら見つめ返し、それを主に言葉で表す活動。

そして、これらの活動は、

- ① イメージや自分の思いを主に言葉で表して仲間と話し合い、再度自分の中で見つめ返し、「発信」から「交流」、 「交流」から「内省」、 「内省」から「発信」へという流れ
- ② 『発信』したことをまず自分の中で見つめ返し、その後、仲間と話し合う、「発信」から「内省」、 「内省」から「交流」、 「交流」から「内省」へという流れ

などがあるが、この3つの活動は相互に関連しており、これらに関連させながら言語活動の充実を図ることができる。〈資料5〉



(2) 「意図的、計画的に言語活動を仕組む」について

これまででも体育学習では、課題解決の手段としてワークシート等を活用して書く作業やグループやチーム内での話し合いや教え合いなどの言語活動を行ってきた。技能や学習意欲を向上させたり、コミュニケーションの充実を図ったりするためにはこれらの言語活動は不可欠であるという先行研究も多く見られる。しかし、その時間が十分に確保できなかったり、逆に、話し合いばかりに時間を費やしてしまい十分な運動量を保障できなかったりすることもあった。また、話し合いが後の学習活動に十分に生かされなかったり、自分の思いを深めたりするまでには至らないこともあった。

そこで、白旗(2010)は、「体育科における言語活動について、言語活動の時間を確保するだけでなく、『話し合いの視点の明確化』『教師からのポイントとなる情報の提示』を掲げ、言語活動の量ではなく、質的向上」を提言している。

以上のような課題と体育学習における言語活動の考え方を基に、本研究における言語活動の場面を次のように整理した。

「発信」する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや自分の思いを明確にする場面 ・自分の思いを発表する場面 ・動き方を考えたり、動いた感じを発表したりする場面
「交流」する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の仕方を話し合う場面 ・動きを高めるために教え合う場面
「内省」する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージや自分の思いを明確にする場面 ・自分の動きを見つめ返す場面 ・今日の活動をふり返る場面

このとき、身に付けさせたい内容を明確にするとともに、テーマや題材、学習展開、場づくりなどを工夫しながら十分な運動量を確保することを重視した授業づくりを行う。そうすることで、表したいイメージや思いと動きをつなぎ、心と体を解放して踊るとともに、仲間のよさを再認識したり、新たな自分を発見したりする子どもを育成できると考える。

なお、言語活動を充実させるための具体的な手立てについては、各校種でそれぞれ報告する。

Ⅲ 研究の目標

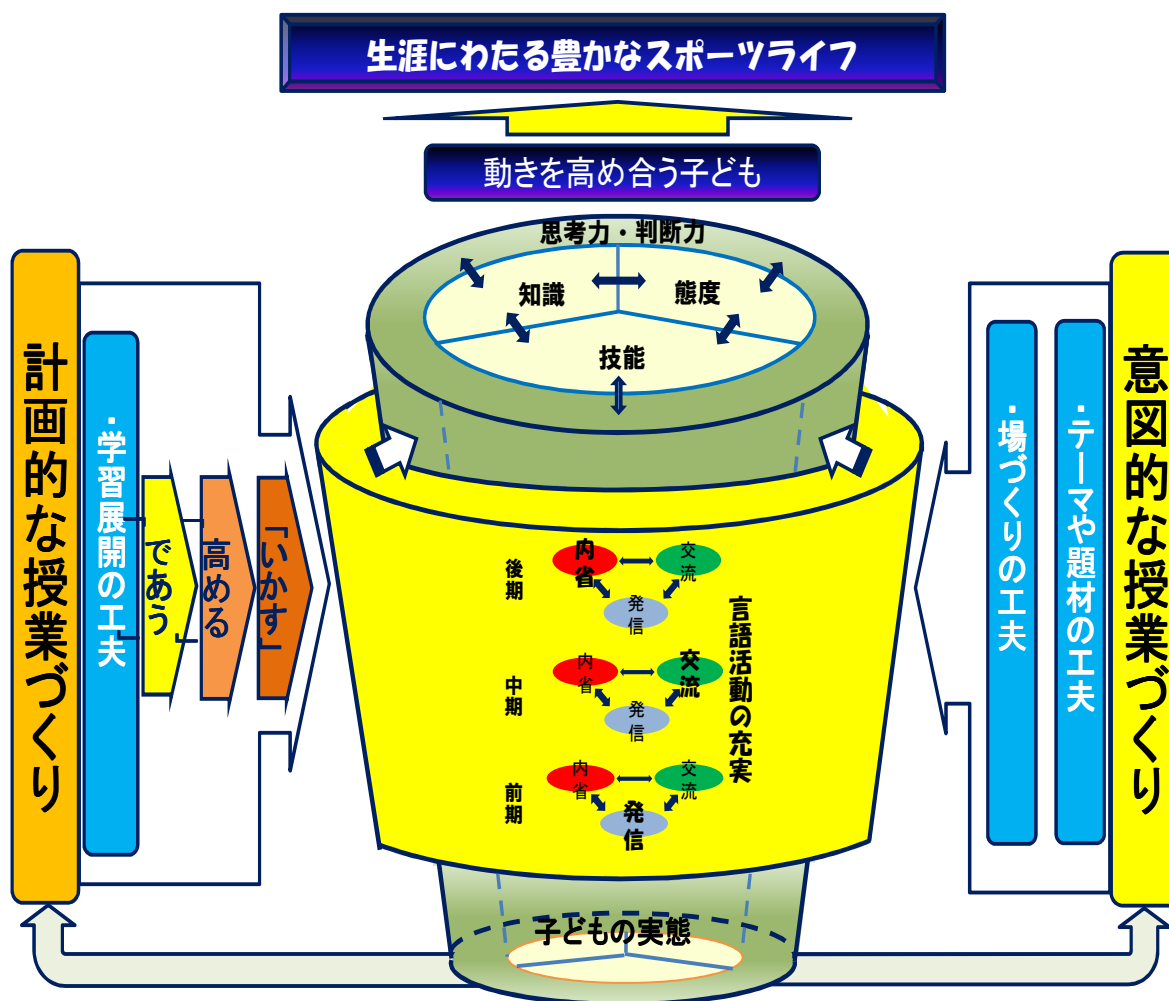
ダンス系の学習において、言語活動の充実を図るための授業づくりを通して、動きを高め合う子どもを育てる学習指導の在り方を究明する。

Ⅳ 研究の仮説

小学校・中学校・高等学校のダンス系の学習において、授業づくりを工夫しながら以下の3点について言語活動の充実を図れば、イメージや思いを動きとつなぎ、動きを高め合う子どもが育つであろう。

- 1 イメージや思いを「発信」する活動
- 2 イメージや思いを「交流」する活動
- 3 イメージや思いを「内省」する活動

Ⅴ 研究構想図



VI 研究の全体考察

本研究は、ダンス系の学習において、言語活動の充実を図る授業づくりを行うことにより、動きを高め合う子どもを育てることを目指した。ダンス系の学習における言語活動を、「**発信**」する活動、「**交流**」する活動、「**内省**」する活動の3つに整理し、言語活動の考え方や充実の方向性などの理論を構築することができた。さらに、その理論を基にした授業実践を通して具体について提言できたことは、有意義であったと考える。

ここでは、検証授業から得られたデータや様相観察の分析から見えてきた成果と課題をもとに研究の考察を行う。

「**発信**」する活動について

特に前期において、イメージと動きをつなぐ過程で、題材からイメージを出し合い、そこから表したい感じを見つける[**発信1**]、具体的な身体の動かし方を主に言葉で表す[**発信2**]、さらに、実際に動いた感じなどを表す[**発信3**]とし、それらを繰り返すようにした。その結果、子どもは具体的な身体の動かし方を試行しながら、表情豊かに全身を使って表現することができた。

このように「**発信**」する活動を構造化したことは、題材のイメージと動きをつなげ、動きを高め合う子どもを育てる上で有効であったと考える。

「**交流**」する活動について

特に中期において、はじめ、なかなか思うように動けなかった生徒が、仲間とかかわり「**交流**」する活動の中でアドバイスを聞いたり、動きをまねたりしながら動き方を理解し、少しずつ仲間とともに表現できるようになった。同じようなことが前期においても見られた。

このように、仲間とかかわりながら主に言葉を使った「**交流**」する活動を意図的、計画的に設定したことによって、イメージを膨らませ、表現の仕方を明確にし、動きを高め合う子どもを育てることができた。

さらに、「**交流**」する活動を通して、仲間のよさを認め、意見を出し合う人間関係を築くことができたことは、体育の実践が人間関係づくりに有効に働きかけることを示したこれまでの数々の研究の成果をあらためて実証することとなった。

「**内省**」する活動について

特に後期において、「**内省**」したことをショートポエムとして表面化したことにより、自分の思いを見つめ返すとともに、ショートポエムを基にした仲間との「**交流**」する活動が生み出された。そして、「**交流**」しながら動きを考え、さらに、動いた感じを「**発信**」して、再び「**内省**」することで、動きとともに、「**内省**」もより一層深めることができた。

このように、「**内省**」から「**交流**」、**交流**から「**発信**」、そして再び「**内省**」へという言語活動の繰り返しによって、動きとともに、題材のイメージや自分の思いも深めることができた。

今回の授業実践を通して、「**発信**」する活動、「**交流**」する活動、「**内省**」する活動の3つの言語活動は相互に関連していることを改めて確認することができた。また、それぞれの活動を授業の中に効果的に仕組むことで、動きを高め合う子どもを育てることができた。

以上のことから、「**発信**」する活動、「**交流**」する活動、「**内省**」する活動の3つの言語活動を意図的、計画的に仕組んだ授業づくりを行うことは、「**技能**」とともに「**態度**」や「**知識**」、「**思考力・判断力**」といった資質や能力を関連させながら互いに高め合う上で効果があると考えられる。

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- (1) ダンス系の学習において、言語活動の考え方や充実の方向性、その具体について提言することができた。
- (2) ダンス系の学習において、言語活動の充実を図る授業づくりを行うことで、「技能」とともに「態度」や「知識」、「思考力・判断力」といった資質や能力を関連させながら互いに高め合う子どもを育てることができた。

2 課題

- (1) 手立てに関する語句や概念を統一した上で研究を進めることができなかった。
- (2) ダンス系以外の領域において、言語活動の充実を図り、動きを高め合う子どもを育てる学習指導の在り方についてさらなる実践や整理を行っていく必要がある。

【引用・参考文献】

- | | | |
|---|----------|------|
| 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」平成20年1月17日 | 中央教育審議会 | 2008 |
| 「小学校学習指導要領解説 体育編」 | 文部科学省 | 2008 |
| 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」 | 文部科学省 | 2008 |
| 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」 | 文部科学省 | 2009 |
| 「身体の動きによる表現—ダンスの教育的価値を求めて」水谷光・三浦弓杖 | 光文書院 | 1973 |
| 「マイネル スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 | 大修館書店 | 1981 |
| 「学校体育用語辞典」松田岩男・宇土正彦編集 | 大修館書店 | 1988 |
| 「身体表現～からだ・感じて・生きる～」柴真理子 | 東京書籍 | 1993 |
| 「楽しい表現運動・ダンス」村田芳子編著 | 小学館 | 1998 |
| 「体育授業を観察評価する」高橋健夫編著 | 明和出版 | 2003 |
| 「各教科等における言語活動の充実」高木展郎編集 | 教育開発研究所 | 2008 |
| 「やってみる ひろげる ふかめる」細江文利・池田延行・村田芳子他編著 | 光文書院 | 2009 |
| 「新版体育科教育学入門」高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著 | 大修館書店 | 2010 |
| 「体育科教育 2008 5月号」 | 大修館書店 | 2008 |
| 「体育科教育 2008 6月号」 | 大修館書店 | 2008 |
| 「体育科教育 2009 11月号」 | 大修館書店 | 2009 |
| 「体育科教育 2010 5月号」 | 大修館書店 | 2010 |
| 「中等教育資料 平成20年5月号」 | ぎょうせい | 2008 |
| 「中等教育資料 平成22年9月号」 | ぎょうせい | 2010 |
| 「体育の年間指導計画 福岡プラン」 | 福岡県体育研究所 | 2010 |
| 「平成20年度 長期派遣研修員 研修報告書」 | 福岡県体育研究所 | 2009 |
| 「平成21年度 長期派遣研修員 研修報告書」 | 福岡県体育研究所 | 2010 |

診断的・総括的授業評価の診断基準

●小学校高学年段階の各項目・次元の得点に関する診断基準

項目名	+	0	-
たのしむ(情意目標)	15.00～13.64	13.64～11.40	11.40～5.00
できる(運動目標)	15.00～12.19	12.19～9.55	9.55～5.00
まなぶ(認識目標)	15.00～11.66	11.66～9.06	9.06～5.00
まもる(社会的行動目標)	15.00～13.53	13.53～11.46	11.46～5.00
総合評価	60.00～49.61	49.61～42.80	42.80～20.00

●中学校段階の各項目・次元の得点に関する診断基準

項目名	+	0	-
たのしむ(情意目標)	15.00～12.11	12.11～9.86	9.86～5.00
できる(運動目標)	15.00～11.28	11.28～8.80	8.80～5.00
まなぶ(認識目標)	15.00～11.95	11.95～9.72	9.72～5.00
まもる(社会的行動目標)	15.00～13.40	13.40～11.40	11.40～5.00
総合評価	60.00～47.45	47.45～41.22	41.22～20.00

●高等学校段階の各項目・次元の得点に関する診断基準

項目名	+	0	-
たのしむ(情意目標)	15.00～13.12	13.12～10.83	10.83～5.00
できる(運動目標)	15.00～11.72	11.72～9.20	9.20～5.00
まなぶ(認識目標)	15.00～11.22	11.22～8.86	8.86～5.00
まもる(社会的行動目標)	15.00～13.81	13.81～11.75	11.75～5.00
総合評価	60.00～48.55	48.55～41.06	41.06～20.00

●大学段階の各項目・次元の得点に関する診断基準

項目名	+	0	-
たのしむ(情意目標)	15.00～12.01	12.01～9.64	9.64～5.00
できる(運動目標)	15.00～12.29	12.29～9.65	9.65～5.00
まなぶ(認識目標)	15.00～12.90	12.90～10.44	10.44～5.00
まもる(社会的行動目標)	15.00～14.53	14.53～12.55	12.55～5.00
総合評価	60.00～50.44	50.44～43.57	43.56～20.00

資料1(診断的・総括的授業評価(小学校))

アンケート1 体育の授業についてのアンケート

_____ 月 日

若菜西小学校 4年1組 番 男・女 名前()

このアンケートは、みなさんが体育の授業を楽しくできるようにするために役立つものです。自分の考えに当てはまるものについて○をつけてください。

- 1 体育では、先生の話をきちんと聞いています。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 2 体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 3 体育をしているとき、どうしたら運動がうまくなるかを考えて勉強しています。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 4 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 5 体育で運動するとき、自分のめあてを持って勉強します。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 6 体育がはじまる前は、いつもはりきっています。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 7 体育では、みんな楽しく勉強します。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 8 体育をしているとき、うまい子や強いチームを見てうまくなるやり方考えることがあります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 9 私は、運動が上手にできるほうだと思います。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 10 体育では、自分から進んで運動します。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 11 体育は、明るくあたたかい感じがします。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 12 体育で習った運動を休み時間や放課後にすることがあります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 13 体育をするとき体がじょうぶになります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 14 体育で、きょう走やゲームで勝っても負けても正直に認めることができます。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 15 体育では、いろいろな運動が上手にできるようになります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 16 体育では、友だちや先生がはげましてくれます。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 17 体育では、せいっぱい運動することができます。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 18 体育では、クラスやグループのやくそくやルールを守ります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 19 私は、少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信があります。(はい・どちらでもない・いいえ)
- 20 体育では、きょう走やゲームをするときは、ルールを守ります。(はい・どちらでもない・いいえ)

資料2(診断的・総括的授業評価(中学校))

体育の授業についてのアンケート

1年 組 番 氏 名 _____

この文章を読んで、自分の考えに当てはまる場合は、「はい」の3に○をつけてください。当てはまらない場合は、「いいえ」の1に○を、また、どちらともいえない場合には「どちらともいえない」の2に○をつけてください。

☆ 今回のアンケートは、長期研修員である私(金ヶ江)の研究にのみ使用しますので、その他の用途(成績等)に用いることはありませんので、正直に回答してください。

	はい	どちらでもない	いいえ
① 体育では、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。	3	2	1
② 体育では、いろいろな運動が上手にできるようになります。	3	2	1
③ 体育では、みんなが、楽しく勉強できます。	3	2	1
④ 体育では、ゲームや競争するときは、ルールを守ります。	3	2	1
⑤ 体育をするとき体がじょうぶになります。	3	2	1
⑥ 体育で、グループで仲間をたててゲームや競争をします。	3	2	1
⑦ 私は、少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信があります。	3	2	1
⑧ 体育は、明るくあたたかい感じがします。	3	2	1
⑨ 体育で、他の人が運動しているとき、応援します。	3	2	1
⑩ 体育をしているとき、うまい子や強いチームを見てうまくなるやり方考えることがあります。	3	2	1
⑪ 私は、運動が上手にできる方だと思います。	3	2	1
⑫ 体育では、せいっぱい運動することができます。	3	2	1
⑬ 体育では、自分から進んで運動します。	3	2	1
⑭ 体育で、ゲームや競争で勝っても負けても正直に認めることができます。	3	2	1
⑮ 体育では、友だちや先生がはげましてくれます。	3	2	1
⑯ 体育では、運動がうまくなるための練習をする時間がたくさんあります。	3	2	1
⑰ 体育がはじまる前は、いつもはりきっています。	3	2	1
⑱ 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。	3	2	1
⑲ 体育では、クラスやグループの約束ごとを守ります。	3	2	1
⑳ 体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見をいいます。	3	2	1

資料3(診断的・総括的授業評価(高等学校))

_____ 月 日 ()

福岡県立八幡中央高等学校 2年 組 男・女 番 氏 名 _____

この文章を読んで、自分の考えに当てはまる場合は、「はい」の3に○をつけてください。当てはまらない場合は、「いいえ」の1に○を、また、どちらともいえない場合には「どちらともいえない」の2に○をつけてください。

今回のアンケートは、長期研修員である私の研究にのみ使用しますので、その他の用途(成績等)に用いることはありませんので、正直に回答してください。

	はい	どちらでもない	いいえ
① 私は、少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信がある	3	2	1
② 体育で、ゲームや競争するときは、ルールを守ります。	3	2	1
③ 体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見をいいます。	3	2	1
④ 体育では、自分から進んで運動します。	3	2	1
⑤ 体育で、ゲームや競争で勝っても負けても正直に認めることができます。	3	2	1
⑥ 体育で、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。	3	2	1
⑦ 体育は、友達と仲良くなるチャンスだと思います。	3	2	1
⑧ 体育をしているとき、どうしたら運動がうまくなるか考えながら勉強しています。	3	2	1
⑨ 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。	3	2	1
⑩ 体育で、「あっ、わかった!」「ああ、そうか」と思うことがあります。	3	2	1
⑪ 体育で体を動かすと、とても気持ちがいい。	3	2	1
⑫ 体育は、明るくて暖かい感じがします。	3	2	1
⑬ 体育では、みんなが、楽しく勉強できます。	3	2	1
⑭ 体育をするとき体がじょうぶになります。	3	2	1
⑮ 体育で運動するとき、自分のめあてを持って勉強します。	3	2	1
⑯ 私は、運動が、上手にできるほうだと思います。	3	2	1
⑰ 体育では、一杯運動することができます。	3	2	1
⑱ 体育では、わかったと思うこと(知識)を実際に生かすことができます。	3	2	1
⑲ 体育では、一つの運動がうまくなると、もう少し難しい運動に挑戦しようという気持ちになります。	3	2	1
⑳ 体育では、クラスやグループの約束ごとを守ります。	3	2	1